

群馬県における自治体肝炎ウイルス検査の実態と陽性者フォローアップ状況

研究分担者：柿崎 暁 群馬大学医学部附属病院 消化器・肝臓内科 診療准教授
研究協力者：戸島 洋貴 群馬大学医学部附属病院 肝疾患センター 病院講師

研究要旨：平成20年度から健康増進事業による自治体主導の肝炎ウイルス検査が行われている。群馬県においても、平成20年度から平成30年度の間、健康増進事業でB型肝炎検査は150,524人に対し行われ、716人（0.48%）の陽性者、C型肝炎ウイルス検査は150,463人に対し行われ、943人（0.63%）の陽性者が判明している。肝炎検査陽性者の受診・受療状況の把握においては、平成27年度からは重症化予防事業に伴うフォローアップ事業が開始されている。しかし、自治体肝炎ウイルス検査陽性者への受診勧奨やフォローアップ状況は自治体によっても異なり、その実態や状況に関しては不明な点も多い。そこで、本研究では、県内の自治体肝炎ウイルス検査受検率と陽性者フォローアップ率向上のため、県内の各市町村の状況を検討した。

A. 研究目的

群馬県内の自治体肝炎ウイルス検査の実態と陽性者フォローアップ状況を把握することにより、県内の自治体肝炎ウイルス検査の受検率と陽性者の治療受療率の向上を目的とする。

平成20年に群馬県内医療機関に実施した実態調査から推計した県内のB型肝炎とC型肝炎で治療対象となる患者数は約7,750人（B型1,150人、C型肝炎6,600人）であった（群馬県肝炎対策推進計画）。平成27年度からC型肝炎に対する直接作用型抗ウイルス剤（DAA）が使用可能になり、群馬県においても治療が促進され、平成30年度に策定した第2次群馬県肝炎対策推進計画では、治療対象患者は、B型肝炎とC型肝炎合わせて4,000人まで減少させることが出来た。

しかし、一方で、未だ肝炎検診を受けていないため自身の感染を知らないキャリアや感染を知っていても治療を中断し根治に至っていない患者も多く存在する。

本研究では、県内の患者の掘り起こし、受療率向上のため、自治体肝炎ウイルス検査

の実態と陽性者フォローアップ状況を調査し、受検率と陽性者の治療受療率のさらなる向上を目的とする。

B. 研究方法

自治体検診状況の調査

県内の市町村の健康増進事業による肝炎ウイルス検査状況と陽性者フォローアップ状況を調査する。

（倫理面への配慮）

個人情報に配慮し「群馬県肝炎対策協議会」の承認を得た。

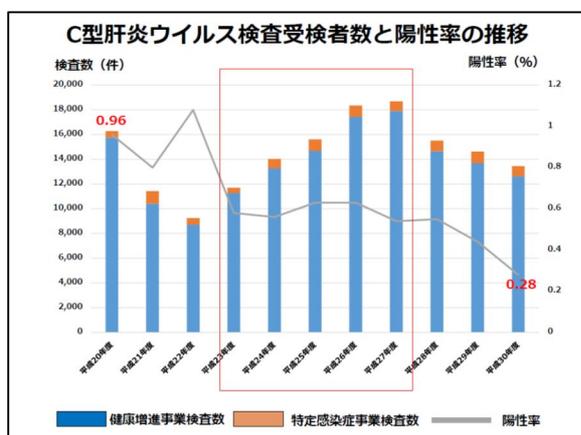
C. 結果及び考察

➤ 健康増進事業による肝炎ウイルス検査受検数の推移

平成20年度から始まった健康増進事業による肝炎ウイルス検査は、平成30年度までの間にB型肝炎150,524人、C型肝炎150,463人が検査を受け、各々716人（0.48%）、943人（0.63%）が陽性であった。一方、本県の特定感染症時事業での検査数は、平成20-30年

度で、B型肝炎9,202人、C型肝炎8,503人で、感染率(平成22-30年度集計)はB型0.33%、C型0.50%であった。

	特定感染症事業	陽性者数	陽性率	健康増進事業	陽性者数	陽性率
平成20年度	521	-	-	15,756	152	0.96
平成21年度	1,018	-	-	10,418	84	0.8
平成22年度	534	7	1.31	8,721	94	1.08
平成23年度	430	3	0.7	11,281	65	0.58
平成24年度	750	8	1.07	13,281	75	0.56
平成25年度	920	2	0.22	14,693	93	0.63
平成26年度	918	5	0.54	17,436	106	0.63
平成27年度	789	2	0.25	17,898	97	0.54
平成28年度	863	2	0.23	14,651	81	0.55
平成29年度	933	3	0.23	13,696	60	0.44
平成30年度	827	3	0.36	12,632	36	0.28



C型肝炎ウイルス検査受検者数の推移

健康増進事業での受検数は、5年毎の受検勧奨が始まった平成23年度から上昇傾向が続いていたが、受検勧奨期間が終了した平成28年度から低下傾向にある。

平成30年度のB型肝炎検査受検者数は、特定感染症事業1,012人・陽性2人(0.20%)、健康増進事業12,614人・陽性50人(0.40%)であった。C型肝炎検査受検者数は、特定感染症事業827人・陽性3人(0.236%)、健康増進事業12,632人・陽性36人(0.28%)であった。陽性率は、特定感染症事業;平成22年度、B型0.29%、C型1.31%に対し、平成30年度はB型0.20%、C型0.36%、健康

増進事業;平成20年度、B型0.68%、C型0.96%に対し、平成30年度はB型0.40%、C型0.28%と、年々減少傾向にある。

健康増進事業での、40歳受診率(受検者/40歳対象者)は、

平成25年度 2,474/27,229 (9.1%)

平成26年度 2,542/25,772 (9.9%)

平成27年度 2,850/24,916 (11.4%)

平成28年度 2,539/24,325 (10.4%)

平成29年度 2,391/24,329 (9.8%)

平成30年度 2,220/25,549 (8.7%)

合計15,016/152,070 (9.9%)であった。

健康増進事業+特定感染症事業で肝炎検査を受けた人数158,966人で、群馬県の人口193.8万に対し、約8.2%である。

➤ 陽性者のフォローアップ状況

県内の35市町村(12市、23町村)のフォローアップ事業の実施状況に関して調査したところ、24市町村で実施、8市町村で対象者なし、3町村で未実施の回答であった。未実施の3町村のうち、2町村で調査年度は陽性者がいなかった。

肝炎ウイルス検査陽性者に対する結果通知方法、受診勧奨方法は、市町村によって異なっていたが、(1)結果通知に検査・治療案内等を同封、(2)陽性者に電話や訪問して直接受診勧奨、(3)医療機関を通じて受診勧奨のいずれかの方法をとっており、単に検査結果を通知しているだけの市町村はなかった。検査結果の通知の際には、本研究班で作成した受診勧奨用リーフレット(群馬版・たたけ肝炎)を利用している市町村も多かった。

フォローアップ事業の同意取得時期は、すべて陽性確認後で、検査同意の時にフォローアップ同意を得る市町村はなかった。検査

の同意に関しては、文書による同意は11/29（37.9%）に留まり、受検シールや受検を同意としている市町村も多かった。

平成30年度の健康増進事業でのC型肝炎検査陽性者は36名であったが、35市町村の中で、陽性者がいた市町村は8市町村で、平成29年度の16市町村から減少しており、27市町村で陽性者がいなかった。5名以上の陽性者がいた市町村は5市で、平成29年度と同数であった。10名以上の陽性者がいた市町村はなかった。

➤ 肝炎治療受給者証陽診断書を用いた診断契機の調査

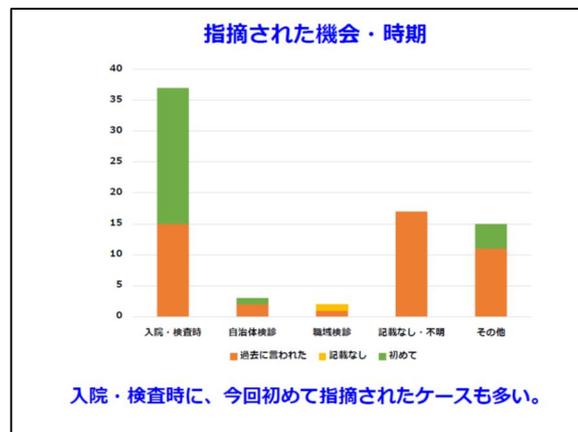
肝炎治療受給者証用診断書を用いた診断契機の調査

様式2-6
肝炎治療受給者証（インターフェロノン治療）の交付申請に係る診断書（要約）
H31.4.1改正版

フリガナ 患者氏名	性別	生年月日(西暦)
住所	氏名 男・女	年 月 日 生 (歳 歳)
診断年月	電話番号 ()	検査機関名 施設名
検査結果	1. 肝炎ウイルス陽性を指摘されたのは今回が初回か。 <input type="checkbox"/> 初めて、 <input type="checkbox"/> 過去に言われた、 <input type="checkbox"/> 不明 (該当するものにチェックする。)	2. 陽性と指摘されたのは下記の検査のいずれか。 <input type="checkbox"/> 自治体検診、 <input type="checkbox"/> 職域検診、 <input type="checkbox"/> 入院・検査時、 <input type="checkbox"/> 不明、 <input type="checkbox"/> その他 (該当するものにチェックする。)

H31.4.1から改訂

肝炎治療受給者証陽診断書の書式を、平成31年度から変更し、診断契機、診断時期を調査した。診断契機は、入院・検査時、自治体検診、職域検診の順で、入院・検査時に診断されるケースが多かった。診断時期は、以前から指摘されているケースも多かった。最近、治療を受けている方では、ウイルス型が2型の比率が高かったが、診断された時期とウイルス型には関連はなかった。



D. 考察

健康増進事業による肝炎検査数は、5年毎の受検勧奨が始まった平成23年度から上昇傾向が続いていたが、受検勧奨期間が終了した平成28年度から低下傾向にある。40歳の受検率も、平成27年度の11.4%をピークに減少傾向で、平成30年度は8.7%であった。一方、肝炎ウイルス陽性率は、健康増進事業で平成30年度はB型0.40%、C型0.28%まで減少させることが出来た。陽性者数の減少に伴い、陽性者のいない市町村もあった。

受診勧奨・フォローアップ事業は市町村単位に行われている。陽性者数が減少し、平成30年度は陽性者がいたのは8市町村に減少した。陽性者数が10名以上の市町村はなかった。陽性者の残っている市町と陽性者数の少ない(いない)町村の2群に大別される。陽性者数の少ない(いない)町村は、保健師等から比較的、適切に受診勧奨・治療勧奨されている。陽性者の残っている市町では、フォローアップ事業での介入が成されているが、陽性者が10名以下となってきており、今後は各市町村において全例での受診勧奨・確認を目標にしたいと考える。

肝炎治療受給者証陽診断書を用いた診断契機の調査では、入院・検査時検査から、治療に繋がったケースが多かった。自治体検

診、職域検診からの治療導入症例数は、入院・検査時に比べ少なく、さらなる介入が必要と考えられた。

E. 結論

群馬県内自治体の肝炎ウイルス検査陽性者への受診勧奨方法と、平成30年度の自治体肝炎ウイルス検査受検状況とフォローアップ状況を調査した。検査陽性率は減少傾向にあり、市町村単位で受診勧奨・確認がされていた。自治体検診に比べ、入院・手術前検査から治療に繋がる症例の方が多く、今後、自治体検査の受検数自体を増やす取り組みも必要であると考えられた

F. 政策提言および実務活動

厚生労働科学研究費・肝炎等克服政策研究事業「職域等も含めた肝炎ウイルス検査受検率向上と陽性者の効率的なフォローアップシステムの開発・実用化に向けた研究」分担(H30-R1)として、群馬県内市町村に受診勧奨・受診確認の重要性を提言した。

研究班活動に加えて、群馬大学附属病院肝疾患センター・副センター長、群馬県肝炎対策協議会委員として、群馬県保健予防課、肝炎対策協議会、肝疾患診療連携拠点病院と連携し、群馬県内の肝炎に関する総合的な施策の推進活動及び肝炎撲滅対策に取り組んでいる。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

- * 干川孔明、櫻井昇幸、町田貴志、堀口昇男、柿崎 暁、他.

当県における肝炎医療行政の現状と課題.
肝臓 60 Suppl. A284, 2019

3. その他

啓発資料

- * 受診勧奨用リーフレット
(群馬版・たたけ肝炎)(別添え)
- * 受診勧奨用リーフレット
(群馬版・命を守る方法がひとつ)
(別添え)

記録集

- * 干川孔明、櫻井昇幸、町田貴志、堀口昇男、戸島洋貴、柿崎 暁、他.
当県における肝炎医療行政の現状と課題.
第55回日本肝臓学会総会メディカルスタッフセッション記録集 p67 2019年8月

啓発活動

- * 柿崎 暁：令和元年度群馬県肝炎医療コーディネーター養成研修会基礎課程「ウイルス性肝炎・肝硬変・肝臓について」「肝炎医療費助成制度について」令和1年9月5日
主催：群馬県 前橋市(別添え)
- * 柿崎 暁：令和元年度群馬県肝炎医療コーディネーター養成研修会実務課程「肝炎医療コーディネーターは何ができますか？」令和1年10月10日
(別添え)
- * 柿崎 暁：令和元年度 群馬県肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会「群馬県の肝炎対策状況について」
- * 柿崎 暁：群馬ウイルス性肝炎診療研修会2019「群馬県内のウイルス性肝炎・肝がん治療と公費助成状況」令和1年7月11日
主催：群馬県 前橋市

- * 柿崎 暁：群馬ウイルス性肝炎診療
研修会 2019-2「群馬県内のウイルス性
肝炎・肝がん治療と公費助成状況」
令和1年12月4日
主催：群馬県 沼田市
- * 柿崎 暁：群馬ウイルス性肝炎診療
研修会 2019-3「群馬県内のウイルス性
肝炎・肝がん治療と公費助成状況」
令和1年12月9日
主催：群馬県 富岡市
- * 柿崎 暁：群馬ウイルス性肝炎診療
研修会 2020「群馬県内のウイルス性肝
炎・肝がん治療と公費助成状況」
令和2年2月26日
主催：群馬県 高崎市

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし